

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 12月3日

【評価実施概要】

事業所番号	3670101777
法人名	医療法人 リバーサイド
事業所名	グランスウィートマリー
所在地	徳島県徳島市川内町富久102-2 (電 話) 088-666-3810
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 11月 28日

【情報提供票より】(平成19年11月11日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 1月 5日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤11人, 非常勤 2人, 常勤換算 Aユニット5.4人, Bユニット6人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての,	2 階 ~	3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 100 円
	または1日当たり		1, 100円

(4)利用者の概要(11月11日現在)

利用者人数	15 名	男性	5 名	女性	10 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	3 名		
年齢	平均 76.9 歳	最低	57 歳	最高	85 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 リバーサイド リバーサイドのぞみ病院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は季節の移り変わりを楽しむことのできる吉野川流域に広がる田園地帯に建てられている。豊かな自然とともに近隣には温泉施設などがあり恵まれた環境に位置している。田園地帯で民家は少ないが、職員は自然環境を活かした暮らしの中で、『目配り』『気配り』『心配り』を理念に、心ふれあう温かみある介護に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) トイレの表示、入浴体制、危険物品の管理に関する明示などは希望や安全性に配慮され改善、工夫されている。利用者の権利義務の記載、緊急時の対応、日誌等の確認印・サイン、研修体制の整備については現在改善中であり、順次改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者と一部の職員で自己評価に取り組み作成されている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議には家族、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員の参加があり、討議内容には事業所からの行事報告、納涼祭などの協力要請や参加者からの意見・要望の収集など情報交換が行われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会が3ヶ月に1回開催され、直接意見交換が行われるとともに、マリー通信や利用者個々の生活の様子が家族に毎月報告され情報の提供、収集に努めている。金銭管理については、現金保管や出納帳の記載は適正に行われているが、家族等に定期的な報告や確認がされていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 田園地帯で民家は少ないが、農作業に来る地元の人たちとは顔なじみの関係ができている。また、今年より納涼祭を企画し、地域住民や家族にチラシなどを配布されている。100名余の参加があり、地域との交流ができ始めている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念はパンフレット並びに家族への案内文などに記載され、利用者本位の生活を目指す方向、考え方を読み取ることができる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週1回ミーティングが行われ、日常的な支援の見直しや、取り組みは行なわれているが、理念について新任職員に対する周知、伝達が十分とはいえない。	○	理念を職員間で共有できるような取り組みが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	田園地帯で民家は少ないが、農作業に来る地元の人たちとは顔なじみの関係ができています。また、今年より納涼祭を企画し、地域住民や家族にチラシなどを配布されている。100名余の参加があり、地域との交流ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び一部職員は評価に対する意義は理解しており、前向きに取り組む姿勢がみられた。しかし、殆どの職員が、今回、初めての自己評価、外部評価で、評価の意義や活用方法に対する理解への取り組みができていない。	○	年1回の評価を計画的・継続的に取り組み、事業所のサービスの質の向上に活かすために、内部研修や勉強会などで全職員がガイドブックに記載されている着眼点などを参考にして、日々の支援や改善に向けて取り組んでいかれたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、開催されている。会議には家族、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員の参加があり、意見や提案を受けることにより前向きな検討がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の状況報告や各種相談等は随時に行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム全体の便り(マリー通信)や、利用者の日常生活の状況を毎月まとめて報告している。金銭管理については、現金保管や出納帳の記載は適正に行われているが、家族等に定期的な報告や確認がされていない。	○	金銭の管理状況を明確にするためにも、家族への定期的な報告とともに確認印等を取ることが求められる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が3ヶ月に1回開催され、要望や意見など直接話し合う機会が設けられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	前年度は職員の離職等が重なり、やむを得ない異動や新規採用により対応し、利用者、家族に対する影響を最小限に抑える努力がみられたが、離職時の引継ぎ体制の期間設定や新任職員の採用要件などの配慮が望まれる。	○	離職時の引継ぎ期間の確保や、新人職員の採用時期などについての配慮が求められる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の育成について同業者の管理者等と情報交換などで前向きに取り組んでいるが、職員研修計画の具体的な作成には至っていない。	○	職員の質の向上のためにも、内部、外部の研修計画を立て、積極的に参加できるような配慮が望まれる。また、研修内容の報告が全職員に伝わる工夫が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上のために他事業所の見学や相互訪問を行ったり交流に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と一緒にホームに来てもらったり、体験入所などで、ホームや職員と馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が自発的に行う日常生活上の行為には見守りの姿勢を保ち、利用者とのコミュニケーションを取りながら共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりのなかで、希望を聞いたり表情、態度から利用者の意向に添えるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意向を尊重しながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な計画で現在対応している。必要時には状況の把握、利用者、家族の意向を踏まえ見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況により、通院や送迎等必要に応じて柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の希望するかかりつけの医療機関を受診し、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に、重度化や終末期のあり方について利用者、家族に説明を行ってよく話し合い、個別に対応する体制となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけや対応にも配慮が見られる。居室に入るときは必ずノックをして許可を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分のペースで生活できるよう、食事、入浴の時間以外は自由に過ごせるよう安全に配慮しながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いを把握し、献立に反映させている。食事も一人ひとりのペースにあわながら介助や支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	設定された時間のほかに、失禁や汗をかいた場合など必要に応じて入浴が可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分で洗濯したり、食事の準備や調理など利用者一人ひとりの能力や力量に応じて役割を持ってもらえるような支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換をかねた買い物や、屋外での体操、散歩など利用者の希望に添った支援ができています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は1階で居室は2階・3階となっていることから、事故予防のため基本的には施錠されている。	○	ホームの立地条件や利用者の状態等を考慮しつつ鍵をかけない取り組みをされたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の消火・避難訓練は年2回行われているが、地震、水害等の発生時の対策が定められていない。	○	地震、水害時等の対応マニュアルの作成が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日記録し把握している。また、献立は関連施設の栄養士が作成し、利用者の摂食状況に応じたキザミ食やおにぎり等の対応がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには季節の草花が飾られており、共用空間には畳コーナーがありくつろぎながらテレビを見たり横になったりできる。しかし、共用空間には季節感を感じさせる工夫がされていなかった。	○	居間に季節の花を置くなど、季節感を感じられる工夫をされたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の生活スタイルや趣味のものなどが持ち込まれており、居心地よく過ごせるよう配慮された居室作りが工夫されている。		